

3

HIGASHI COMPASS

junior high school

2026年

3月19日

志の継承

校長 林 武宏

12日間の熱戦を繰り広げたパラリンピックが、3月15日に幕を閉じました。オリンピックに比べて、テレビ放送が限定的なのは毎回残念でありませんが、日本選手団はメダル4つという素晴らしい活躍を見せてくれました。中でもアルペンスキーの村岡桃佳選手は、2つの銀メダルを獲得。これで冬季パラ日本勢単独最多の通算11個目のメダルとなりました。実は村岡選手、昨年4月と11月、練習中の転倒により鎖骨骨折と腱板損傷という重傷を負っており、雪上練習に復帰できたのは2月半ば。鎖骨は接合しないまま、本番を迎えていたのです。前回大会は金メダルでしたから、2位という結果はご本人にとっては悔しさもあったでしょう。それでも、怪我という恐怖を「志」で乗り越えて、つかみとった銀メダルを誇らしげに掲げる笑顔は、私たちに深い感動を与えてくれました。この「困難や不便さを志で乗り越える姿」は、本校の生徒会活動にも通じるものがあります。

今週の火曜日、第41期友愛会の報告会が行われました。3年生が掲げた今年度のビジョンは、前年度の「全員参加」という土台を継承した「効率徹底」。これは、効率的な活動によって生まれた余力で新たな試みに挑戦し、最大限の成果を得ることを目指したものです。

報告会では、各委員長から具体的な成果と共に、次年度への課題や後輩への熱いメッセージが語られました。40期から41期へと託されたバトンは、この会を経て、いよいよ次代へと引き継がれます。先輩たちの思いを受け取った2年生が、果たしてどのようなビジョンを掲げるのか、今から楽しみでなりません。

かつて本校の生徒会は、各委員会の人数がクラスごとに割り振られ、性別や学年など概ね均等な組織で活動していました。均等な組織には、議論の際には意見の偏りを防ぎ、また、決定事項など情報が全校に等しく行き渡るという大きなメリットがあります。

しかし一方で、人数枠があるために「第一希望の委員会に入れたい」という課題もありました。たとえば「学園祭を盛り上げたい」という志を持つ生徒が特定のクラスに集中した場合、人数枠からこぼれた生徒は第一希望とは異なる委員会に所属し活動していました。

転機は2020年でした。当時の生徒会長から「全員が第一希望の委員会に所属する」という決議が総会に諮られ、現在の形へと改められました。均等でない組織を運営することは、先述のメリットを失うことでもあります。不便な面も多々ありますが、「一人ひとりのやりたいという志を尊重する」という決意のものと改編でした。

この「志を尊重する」姿勢は、パラリンピックの理念にも通じます。多様性を尊重し、誰もが能力や個性を發揮できる場を大切にする。強い「志」があれば、不便さを創意工夫で乗り越え、新しい価値を生み出すことができる。それはまさに、自身の可能性を信じて限界に挑むパラリンピアン姿そのものです。

多様性を尊重する本校だからこそ、この生徒会の在り方が生まれたのだと私は確信しています。来年度新3年生にも、誰もが個性を發揮できる学校生活を、自らの手で作り上げていくことを願っています。

最後になりますが、保護者の皆さまには1年間本校の教育にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございました。おかげさまで今年度予定していたすべての教育活動を終えることができました。

とりわけ3年生の保護者の皆様には、学校を信頼しお子様を3年間託していただき感謝いたします。卒業する3年生全員が、この学校で得た志を胸に、新しい場所でその個性を存分に發揮し、新たな価値を生み出してくれることを願っています。



1年生 箱根学習



今回の箱根学習は、1年間の学校生活のまとめとして、箱根の豊かな自然の中での集団生活を通して自立心と協調性を高めるとともに、A~E組混合での班活動の中で、学年の絆を深める機会です。次年度実施予定の京都奈良学習に向けたステップとして、この2日間はとても有意義なものになっています。

一日目は、朝体育館に集合して大型バスで箱根へ出発。まず向かったのは小田原城です。城の中、また資料館の展示を見て歴史を学び、天守閣に上りました。天候に恵まれ、辺りは桜もきれいに咲いており、頂上からの眺めは格別でした！昼食は「鈴廣かまぼこ」へ。小田原名物の練り物など美味しくいただきました。午後は畑宿へ移動し、寄木細工体験。30ピースの木材を組み合わせ、それぞれがオリジナルのコースターを制作しました。ホテル到着後は、部屋で班のメンバーとトランプをしたり、温泉につかって疲れをとったり、皆で過ごす箱根の夜を満喫しています。

二日目は箱根の自然を満喫する行程です。大涌谷では箱根火山の荒々しい様子を見学するとともに、ロープウェイからの壮大な景色も堪能しました。その後は海賊船に乗船し、芦ノ湖のクルージングです。天候にも恵まれた甲板からの風景もまた格別なものでした。昼食は「箱根旅物語館」でお鍋をいただき、クルージングで冷えた身体を暖めています。当時を再現した施設を見たり、高台の遠見番所から芦ノ湖を一望したりして箱根の歴史を感じました。2日間という短い時間でしたが、親元を離れ学年の仲間とともに過ごしたことで、精神的にまたひとつ成長し、1年間の良いまとめとなりました。



41期 友愛会報告会



友愛会活動の一年間を振り返る、第41期友愛会の報告会を行いました。今年度は「効率徹底」という目標を友愛会全体として掲げ、昨年目標であった「全員参加」を前提に、さらに高いレベルの活動を目指しました。限られた時間の中で、すべての委員会がより意味のある活動を行うために、各委員長が年間スケジュールを作成し、全活の時間には総務委員が分担して各委員会を見回すなど、活動の進み具合を確認しました。今年度の活動を通して、全員が参加していても作業量に差が出てしまうことや、まだ効率を高められる部分があることを強く実感しました。これらの点を意識しながら、より充実した友愛会活動を作っていってほしいと思います。

スピーチコンテスト

3月12日にスピーチコンテストの本選が行われました。A B組はクラス内予選で選出された代表2名が、C D E組は各学年の代表1名が出場します。

中学校生活の集大成として、完成度の高いスピーチを披露した3年生の姿は、下級生にとってよい手本となったことでしょう。経験を積み昨年より成長した2年生、初めての舞台でも堂々と発表した1年生の、来年のさらなる活躍が楽しみです。1位の生徒のスピーチ内容を掲載します。



発表順	クラス	発表者氏名	テーマ
1	1年	星野さん	私の決断
2	1年	高野さん	日々の積み重ね
3	3年	中平さん	旅
4	2年	林さん	新しい夢
5	3年	末永さん	本気&全力
6	3年	伊藤さん	言葉にすること
7	2年	長谷川さん	それでも続けた
8	3年	堤さん	それってパワハラなのかな？
9	2年	長束さん	挑戦は一時の恐怖 臆せば一生の停滞
10	1年	小下さん	高原の景色
11	3年	石川さん	思い出に残ったスポーツ大会
12	1年	神戸さん	バスケットボール部
13	1年	河野さん	時間
14	2年	齋藤さん	脱! わかったつもり
15	2年	山本さん	「正解」のanswer

1位 2年 齋藤さん 『脱! わかったつもり』

みなさんは大切にしている言葉はありますか? 「百聞は一見にしかず」ということわざがあります。百回聞くことは一回見ることには及ばない、つまり、実際に自分の目で見たり、体験したりすることがとても重要だということです。これは日本だけではなく、英語圏の「Seeing is believing. 見ることは信じること」やフランスの「Il faut le voir pour le croire. 信じるためには見なければならぬ」のように、世界中の国で同じ意味のことわざがあります。自分の目で確かめることの大切さは世界共通なのです。

私はこれを、実際に韓国に行った経験を通して、より強く実感しました。日本では、韓国についての報道でよく「反日」という言葉を耳にします。正直、現在の大統領の考え方から、以前よりも韓国の人は日本をあまりよく思っていないのかなと行く前は少し不安でした。

しかし、実際に韓国に行ってみると、その印象は大きく変わりました。電車に乗っていたとき、日本語を勉強しているという韓国人の学生が日本語で話しかけてくれました。たどたどしい日本語でしたが、「日本のことが好き」だと一生懸命伝えてくれ、アプリでの勉強法まで見せてくれました。嬉しかったです。また、お店での注文で迷っていたとき、店員さんが一緒に読んでくれたり、分かりやすい英語や簡単な日本語も話してくれたりして、とても親切な対応を受けました。

もちろん、歴史的な問題や国同士の意見の違いなどで偏見を持つ人もいますが、優しい経験が大きく上回りました。日本を知っている人は反日ではなく、そして、韓国を知った私も改めて韓国が好きになりました。

百聞は一見にしかず、本当の理解は、実際に見て、感じて、経験してこそ生まれるということです。だから私は、何事も「わかったつもり」の偏見をもたず、たくさんの人、物、場所に対してオープンな自分でありたいです。それが私の世界を本当の意味で広げてくれると思うから。



2AB 探究科

2年生が1年間をかけて取り組んだ個人探究作品の校内審査
がおわり、以下が優秀賞・奨励賞・入選となりました。

	氏名	タイトル
優 秀 賞	新井さん	【制服】デザインの変化とこれからの制服
	大藤さん	赤ずきんの結末はなぜ変わったのか ~恐怖から自立へ社会的価値観の変遷~
	長谷川さん	高齢者と”Quality of Life” ~高齢者向けのファッションビジネスはどのように行っていったらよいか~
	松本さん	農業の温暖化問題 ~青パパイヤを中野で育てる~
奨 励 賞	伊藤さん	増反による日本の“食の安全保障”
	稲村さん	手掌多汗症と向き合い、今より快適な生活を送るには
	恩村さん	読者の心をつかむ小説の書き方とは
入 選	梅田さん	過疎化の進む伊豆大島の魅力を発信するには
	栗原さん	推し活の消費行動と消費者トラブル
	田中さん・松永さん	化学カイロと多孔質物質（共同研究）
	中澤さん	木次線 ~赤字を解消するには~

